

# 北の原始時代

阿子島 香編  
(東北大学大学院文学研究科)



原始時代の「東北」で、人びとはいかに生活を営んだのか。多くの出土品から、旧石器の利器と技法、細石刃文化、縄文の土器と集落、亀ヶ岡文化などに迫る。東アジアの中で独自の発展を遂げた、東北文化の夜明けを描く。

本シリーズの



## 古代東北の歴史の流れがわかる最新通史

東北の総合的歴史概説書として定評のあった豊田武編『東北の歴史』上巻の刊行から四八年。その後の飛躍的な研究成果を踏まえ、新たな東北の古代史像を描き出す。

## 「地域」からの視点でわかりやすく叙述

東北に根差した歴史研究に従事する執筆陣による、詳細・平易な内容。「地域」からの視点で、これまで見えてこなかった東北の姿が浮かび上がる。

## 総論で広く、テーマで深く、コラムで補足

各巻で取り上げる時代を、序章で総論として俯瞰し、重要テーマに焦点を絞った各章が続く構成。近年注目され話題のキーワードについてもコラムで補完する。

## 北東アジアのなかの東北地方を捉え直す

アイヌの北方文化や東北地域のまとまりとしての「蝦夷」にも注目。北東アジア世界の中における東北を位置づけ、その特徴や個性を明らかにする。

## 災害史にも目を向け、復興への教訓を学ぶ

九世紀の東北に頻発した地震・津波・噴火・飢饉などの自然災害の歴史を多く取り上げ、復興をめざす現代社会への教訓を学ぶ。

【姉妹編】東北の中世史 全5巻 6月刊行開始



吉川弘文館

〒113-0033・東京都文京区本郷7-2-8 [URL]http://www.yoshikawa-k.co.jp/ 電話 03-3813-9151 (代表) / FAX.03-3812-3544 価格は税別です

(キリトリ線)

注文書

●『東北の古代史』全5巻を(      セット)注文します。

●第(      )巻を(      冊)注文します。

お名前 \_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

●吉川弘文館 特約書店名

15年7月



刊行開始

名書『東北の歴史』の刊行から四八年。  
東北のルーツを見つめ直し、  
新たな「北」の歴史像を描く  
二大新シリーズ古代編！

# 東北の古代史

全5巻

亀ヶ岡～続縄文文化、  
三内丸山遺跡、蝦夷、  
アテルイ、多賀城、  
安倍・清原氏、  
前九年・後三年合戦…。

変わる！東北史

\*全巻申込受付中！

お申込は最寄りの書店、または直接小社営業部まで

企画編集委員  
熊谷公男 (東北学院大学文学部)  
柳原敏昭 (東北大学大学院文学研究科)

吉川弘文館

近年、東北古代史研究は大きく進展し、歴史の書き換えが進みました。考古学・文献史学の両分野を中心とした学際的研究も盛んに進められています。さらには二〇一一年の東日本大震災を契機に、東北の古代史に新たな光があてられつつあります。弥生時代や平安時代の地震・津波災害の研究成果からは、人々が立ち上がり、復興する姿が浮かびあがります。考古学・歴史学は、過去の資料に向かいあうだけでなく、未来へ向け私たちが何をなすべきかも教えてくれると信じています。本シリーズは、北東アジアの先史文化との交流、亀ヶ岡文化の繁栄、伝播した古墳文化、蝦夷の社会と文化、城柵、多賀城碑、三十八年戦争と阿弖流為の闘い、前九年・

後三年合戦などのトピックスを軸にすえ、原始時代以来の古代東北の姿を明らかにした通史です。本シリーズを手にとつていただき、あらためて、受け継がれてきた東北独自のエネルギーの源について考える契機になることを強く望みます。

二〇一五年四月

〈企画編集委員〉熊谷公男

# 全5巻の構成

## 1 北の原始時代

阿子島 香編  
(東北大学)

978-4-642-06487-3

- 序 石器時代の東北……………阿子島 香
- 一 氷河時代の人類生活を探る……………阿子島 香
  - 二 旧石器人の装備と変動……………沢田 敦(新潟県埋蔵文化財調査事業団)
  - コラム 年代測定と暦年較正……………鹿又喜隆(東北大学)
  - 三 地球温暖化と縄文的適応へ……………鹿又喜隆
  - 四 東北縄文集落の姿……………菅野智則(東北大学埋蔵文化財調査室)

- コラム 貝塚から分かること……………菅野智則
- 五 縄文土器と原始社会……………水沢教子(東北大学)
- コラム 東北縄文時代人の身体……………澤田純明(新潟医療福祉大学)
- 六 亀ヶ岡文化の実像……………関根達人(弘前大学)
- 七 東北アジアのなかの東北先史文化……………福田正宏(東京大学)

## 2 倭国の形成と東北

藤沢 敦編  
(東北大学)

978-4-642-06488-0

- 序 倭国の形成……………藤沢 敦
- 一 稲作農耕の受容と農耕文化の形成……………高瀬克範(北海道大学)
  - コラム C年代測定法……………高瀬克範
  - 二 農耕社会の変容……………斎野裕彦(仙台市教育委員会)
  - 三 古墳出現期の列島東北部……………青山博樹(福島県教育委員会)
  - コラム 古墳時代の開始年代と邪馬台国論争……………藤沢 敦

- 四 不安定な古墳の変遷……………藤沢 敦
- 五 古墳時代併行期の北日本……………八木光則(蝦夷研究会)
- コラム 石器の使用痕分析……………高瀬克範
- 六 前方後円墳の終焉と終末期古墳……………菊地芳朗(福島大学)
- 七 北東北の社会変容と末期古墳の成立……………藤沢 敦

## 3 蝦夷と城柵の時代

熊谷公男編  
(東北学院大学)

978-4-642-06489-7

- 序 陸奥・出羽両国の成立と新たな蝦夷支配……………熊谷公男
- 一 城柵の設置と新たな蝦夷支配……………永田英明(東北大学学術資源研究公開センター)
  - コラム 渤海使の出羽への来航……………熊谷公男
  - 二 律令国家形成期の移民と集落……………菅原祥夫(福島県文化振興財団)
  - 三 版図の拡大と城柵……………村田晃一(宮城県教育庁文化財保護課)

- コラム 伊治城の罅……………村田晃一
- 四 北縁の蝦夷社会……………宇部則保(八戸市埋蔵文化財センター/是川縄文館)
- コラム アイヌ語系地名……………熊谷公男
- 五 東北への仏教の伝来と寺院・瓦……………佐川正敏(東北学院大学)
- 六 出土文字資料と多賀城碑……………吉野 武(宮城県多賀城跡調査研究所)
- 七 蝦夷支配体制の強化と戦乱の時代への序曲……………熊谷公男

## 4 三十八年戦争と蝦夷政策の転換

鈴木拓也編  
(近畿大学)

978-4-642-06490-3

- 序 三十八年戦争とその後東北……………鈴木拓也
- 一 光仁・桓武朝の征夷……………鈴木拓也
  - コラム 阿弖流為の処刑地……………鈴木拓也
  - 二 征夷の終焉と蝦夷政策の転換……………鈴木拓也
  - コラム 坂上田村麻呂の墓……………鈴木拓也
  - 三 平安初期の城柵再編と地域社会……………西野 修(矢巾町教育委員会)
  - コラム 葦手刀……………八木光則(蝦夷研究会)

- 四 蝦夷社会と交流……………鐘江宏之(学習院大学)
- 五 九世紀の地震・津波・火山災害……………柳澤和明(東北歴史博物館)
- コラム 十和田火山の噴火と胡桃館……………高橋 学(秋田県埋蔵文化財センター)
- 六 東北の神々と仏教……………堀 裕(東北大学)
- 七 元慶の乱……………熊谷公男(東北学院大学)

## 5 前九年・後三年合戦と兵の時代

樋口知志編  
(岩手大学)

978-4-642-06491-0

- 序 兵たちの時代……………樋口知志
- 一 城柵制支配の廃絶と地域社会の変容……………小口雅史(法政大学)
  - 二 奥六郡と安倍氏……………八木光則(蝦夷研究会)
  - 三 出羽山北三郡と清原氏……………島田祐悦(横手市教育委員会)
  - 四 安倍・清原氏と仏教……………窪田大介(岩手県立雫石高等学校)

- コラム 安倍・清原氏の祖先系譜……………樋口知志
- 五 前九年合戦……………樋口知志
- コラム 『陸奥話記』……………樋口知志
- 六 後三年合戦と平泉開府への道程……………樋口知志
- コラム 『奥州後三年記』……………樋口知志
- コラム 海道平氏と磐城郡……………樋口知志

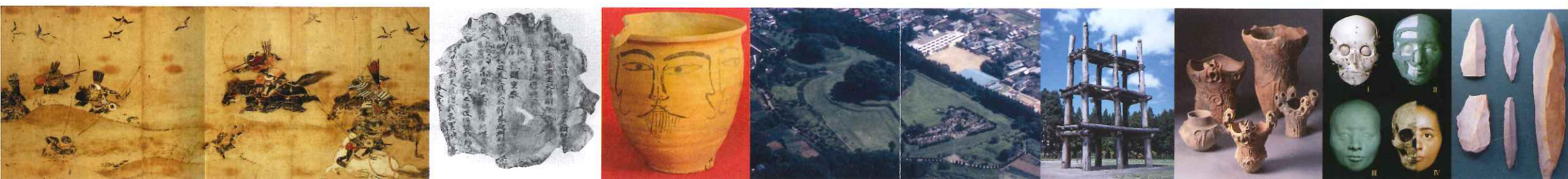
つわもの

※書名および内容は今後変更する場合がございます



1 亀ヶ岡遺跡出土(本音より)

写真・右から、樋口知志(法政大学)、小口雅史(法政大学)、八木光則(蝦夷研究会)、島田祐悦(横手市教育委員会)、窪田大介(岩手県立雫石高等学校)、鐘江宏之(学習院大学)、柳澤和明(東北歴史博物館)、高橋 学(秋田県埋蔵文化財センター)、堀 裕(東北大学)、熊谷公男(東北学院大学)、菅原祥夫(福島県文化振興財団)、青山博樹(福島県教育委員会)、斎野裕彦(仙台市教育委員会)、高瀬克範(北海道大学)、藤沢 敦(東北大学)、村田晃一(宮城県教育庁文化財保護課)、宇部則保(八戸市埋蔵文化財センター/是川縄文館)、佐川正敏(東北学院大学)、吉野 武(宮城県多賀城跡調査研究所)、鈴木拓也(近畿大学)、樋口知志(岩手大学)



# 平泉の光芒

柳原敏昭編  
(東北大学大学院文学研究科)

世界遺産平泉。みちのくに一大都市はなぜ生まれたのか。中尊寺、毛越寺に代表される仏教文化が栄えた原動力は。清衡の草創、基衡の苦悩、秀衡の革新、そして滅亡へ、中世東北の扉を開けた平泉藤原氏の実像に迫る。



本シリーズの  
特色

◆ **中世東北の歴史の流れがわかる最新通史**  
東北の総合的歴史概説書として定評のあった豊田武編『東北の歴史』上巻の刊行から四八年。その後の飛躍的な研究成果を踏まえ、新たな東北の中世史像を描き出す。

◆ **「地域」からの視点でわかりやすく叙述**  
東北に根差した歴史研究に従事する執筆陣による、詳細・平易な内容。「地域」からの視点で、これまで見えてこなかった東北の姿が浮かび上がる。

◆ **総論で広く、テーマで深く、コラムで補足**  
各巻で取り上げる時代を、序章で総論として俯瞰し、重要テーマに焦点を絞った各章が続く構成。近年注目され話題のキーワードについてもコラムで補完する。

◆ **東アジア・日本列島のなかの東北地方を捉え直す**  
日本列島の中で、東北アジアの中で、東北をめぐるとヒト・モノ・情報の流れは、どのようなものだったのか。東北は畿内や関東の権力とどう向き合い、対応していったのか。新たな視点から明らかにする。

◆ **独自の文化・社会を築いた東北の力を探る**  
平泉文化を花開かせた藤原氏、十三湊を拠点に北の世界に雄飛した安藤氏、戦国乱世を生き抜いた伊達氏…。東北史を彩る地域権力の姿に、今日まで続く東北のエネルギーの源を探る。

◆ **姉妹編** 東北の古代史 全5巻 7月刊行開始

名著『東北の歴史』の刊行から四八年。  
東北のルーツを見つめ直し、  
新たな「北」の歴史を描く  
二大シリーズ中世編！



吉川弘文館

〒113-0033・東京都文京区本郷7-2-8 [URL] <http://www.yoshikawa-k.co.jp/>  
電話 03-3813-9151 (代表) / FAX.03-3812-3544 価格は税別です

(キリトリ線)

注文書

- 『東北の中世史』全5巻を(            セット)注文します。
- 第(            )巻を(            冊)注文します。

お名前

TEL

ご住所

〒

●吉川弘文館 特約書店名

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

15年6月

刊行開始



# 東北の中世史

全5巻

平泉文化、奥州惣奉行、  
安藤氏、十三湊、  
伊達・最上・大崎氏、  
奥羽仕置…。

変わる！ 東北史

\*全巻申込受付中！

お申込は最寄りの書店または直接小社営業部まで

企画編集委員  
柳原敏昭 (東北大学大学院文学研究科)  
熊谷公男 (東北学院大学文学部)

吉川弘文館

\*刊行のことは

近年の東北中世史研究の進展には、めざましいものがあります。文献史料の読み直しが行なわれ、数多くの遺跡が調査されています。対象とする史料の範囲が著しく拡大され、学際的な研究も進みました。東北という地域を考える上での枠組も日本列島全体、さらには東アジア規模へとひろがっています。本シリーズは、こうした学問的蓄積を背景として編まれる、清新で平易な東北中世の通史です。平泉、奥州惣奉行、北畠顕家、奥州・羽州探題、十三湊、伊達政宗といった著名なトピックスはもちろんのこと、生業、交通・流通、宗教・文化などさまざまな

面から中世東北を描き出します。

東日本大震災以降、地域史のもつ意味が再認識されています。地域の来し方を考え、行く末に思いを致すためにも、本シリーズを手にとっていただきたいと強く願うものです。

二〇一五年四月

〈企画編集委員〉 柳原敏昭

# 全5巻の構成

## 1 平泉の光芒



奥州藤原氏三代 (本書より)

柳原敏昭編  
(東北大学)

978-4-642-06492-7

※書名および内容は今後変更する場合がございます

序 平泉とは何か

柳原敏昭

- 一 清衡の草創……………佐藤健治 (東北芸術工科大学)
- 二 基衡の苦悩……………遠藤基郎 (東京大学史料編纂所)
- 三 秀衡の革新……………岡陽一郎 (東北学院大学)
- コラム 分水嶺としての会津……………岡陽一郎
- 四 掘り出された平泉……………八重樫忠郎 (平泉町総務企画課)

コラム 柳之御所の保存運動……………菅野成寛 (若手大学平泉文化研究センター)

菅野成寛

五 平泉文化の歴史的意義……………菅野成寛

六 東アジア・列島のなかの平泉……………小川弘和 (熊本学園大学)

コラム 平泉伝説……………柳原敏昭

七 奥州合戦……………柳原敏昭

コラム 阿津賀志山の二重堀……………八重樫忠郎

## 2 鎌倉幕府と東北

七海雅人編  
(東北学院大学)

978-4-642-06493-4

序 鎌倉時代の東北

七海雅人 (東北学院大学)

- 一 鎌倉幕府の成立と東北……………三好俊文 (仙台市博物館)
- 二 東北の荘園と公領……………清水亮 (埼玉大学)
- コラム 骨寺村の世界……………鈴木弘太 (関市教育委員会)
- 三 御家人の動向と北条氏所領の展開……………七海雅人
- コラム 唐系伝説……………七海雅人

四 中世前期東北の信仰と霊場……………山口博之 (山形県立博物館)

コラム 松島と山寺……………山口博之

五 遺跡からみる中世前期東北の社会……………飯村均 (福島県文化振興事業団)

コラム 荒井猫田遺跡……………飯村均

六 鎌倉幕府の滅亡と東北……………七海雅人

## 3 室町幕府と東北の国人

白根靖大編  
(中央大学)

978-4-642-06494-1

序 南北朝・室町時代の混迷

白根靖大 (中央大学)

- 一 建武新政と陸奥將軍府……………白根靖大
- 二 東北の南北朝内乱と奥州管領……………江田郁夫 (栃木県立博物館)
- 三 京・鎌倉と東北……………黒嶋敏 (東京大学史料編纂所)
- コラム 篠川御所を歩く……………垣内和孝 (郡山市文化・学び振興公社)
- 四人と物の交流……………綿貫友子 (大阪教育大学)
- コラム 後城と秋田湊……………伊藤武士 (秋田市教育委員会)

五人々の信仰と文化……………菊地大樹 (東京大学大学院情報学環兼史料編纂所)

コラム 出羽国の一括出土銭……………須藤英之 (日本考古学協会)

コラム 仙台平野の板碑と石材……………菊地大樹

六 東北の国人たち……………白根靖大

コラム 安藤氏の系譜認識……………若松啓文 (青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ)

コラム 中世十三湊の景観……………中澤寛将 (青森県埋蔵文化財調査センター)

## 4 伊達氏と戦国争乱

遠藤ゆり子編  
(淑徳大学)

978-4-642-06495-8

序 戦国時代の東北

遠藤ゆり子 (淑徳大学)

- 一 伊達氏、戦国大名へ……………菅野正道 (仙台市博物館)
- コラム 伊達政宗の野望……………遠藤ゆり子
- 二 南奥の国衆と佐竹氏……………垣内和孝 (郡山市文化・学び振興公社)
- 三 大崎氏と近隣国衆……………佐藤貴浩 (足立区立郷土博物館)
- 四 最上氏と北出羽の領主……………金子拓 (東京大学史料編纂所)
- 五 北奥の国衆……………熊谷隆次 (八戸工業大学第二高等学校)

六 中世城郭群……………松岡進 (東京都立桜町高等学校)

七 宗教と文化……………佐々木徹 (仙台市博物館)

八 戦国の町村……………遠藤ゆり子

九 東北と統一権力……………遠藤ゆり子

コラム 遠藤家文書の発見……………菅野正道

## 5 東北近世の胎動

高橋 充編  
(福島県立博物館)

978-4-642-06496-5

序 転換する東北

高橋 充 (福島県立博物館)

- 一 奥羽仕置……………高橋 充
- 二 朝鮮出兵と奥羽の城郭……………太田秀春 (鹿児島国際大学)
- コラム 石垣・礎石・瓦葺……………垣内和孝 (郡山市文化・学び振興公社)
- 三 関ヶ原合戦と奥羽の諸大名……………阿部哲人 (米沢市上杉博物館)
- コラム 桃山茶陶と大名窯……………飯村均 (福島県文化振興事業団)

四 街道・町と商人……………阿部浩一 (福島大学)

五 政宗と村……………籠橋俊光 (東北大学)

六 宗教と信仰……………菅根原 理 (東北大学)

七 奥羽の富のゆくえ……………兼平賢治 (東海大学)

